

九州・山口に住む6歳未満の子どもを持つ夫婦の夫と妻に、平日・休日別の家事・育児等の取組時間、家事・育児等に対する性別役割分担意識、男性が家事・育児に参加するために必要だと思うこと、産後パパ育休制度の利用意向などについてWebによる調査を実施しました。

●平日の夫の家事・育児等の時間は2時間13分、妻は8時間46分

※家事・育児等の時間＝「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の家事関連時間の合計

- ・平日の夫の家事・育児等の時間は2時間13分、妻は8時間46分であり、妻の時間が夫より6時間以上長く、特に「家事」と「育児」の時間は、3倍以上の差があります。

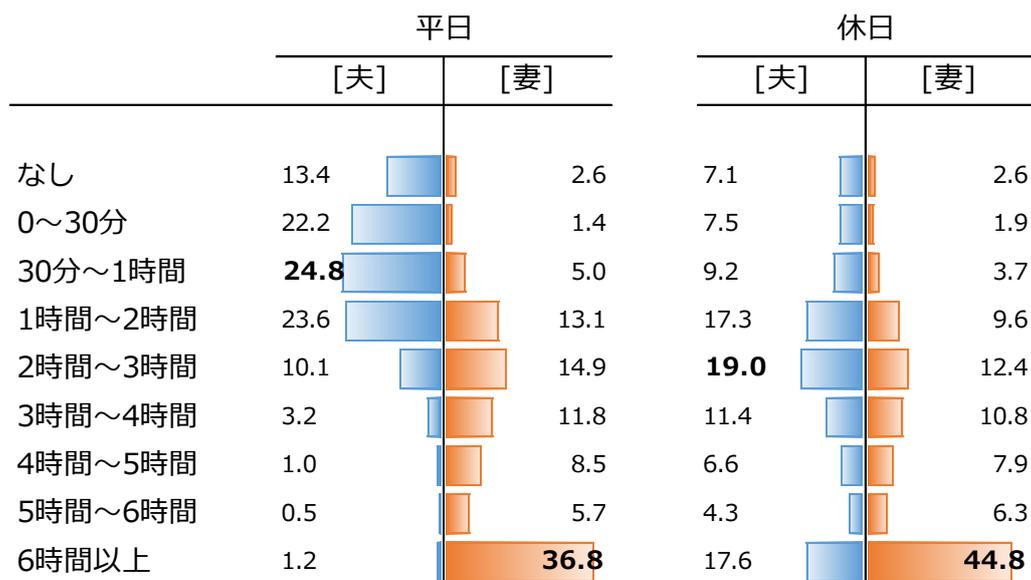
平日	合計時間	家事	介護・看護	育児	買い物
男性平均	2時間13分	40分	5分	1時間07分	20分
女性平均	8時間46分	3時間00分	12分	4時間29分	1時間05分

●休日の夫の家事・育児等の時間は5時間09分、妻は9時間36分

- ・休日の夫の家事・育児等の時間は、平日よりも3時間近く長いものの、妻の家事・育児等の時間と比較するとおよそ半分で、4時間以上の差があります。

休日	合計時間	家事	介護・看護	育児	買い物
男性平均	5時間09分	1時間06分	7分	3時間04分	52分
女性平均	9時間36分	3時間07分	12分	4時間56分	1時間22分

●育児をする時間は、夫は、平日「30分～1時間」、休日「2～3時間」が多く、妻は、平日・休日とも「6時間以上」が最も多い



- ・平日は、夫の育児時間で最も多いのが「30分～1時間」（24.8%）、妻は「6時間以上」が最も多く（36.8%）、妻が大きく育児を担っていることがわかります。
- ・一方、休日は、夫の育児時間が平日に比べて長くなっていますが、休日であっても、夫が6時間以上育児をしている割合は17.6%にとどまり、夫と妻との差が著しいといえます。

●夫の、家事・育児等の時間は、県別では沖縄県が最も長い

・夫の家事・育児等の取組時間は、沖縄県が平日・休日とも最も長く、平日2時間44分、休日5時間34分となっています。次いで長いのは佐賀県となっています。

●共働き夫婦は全体の3分の2、また、約7割の夫婦は親からの家事・育児の支援なし

・共働きの割合が66.1%、夫のみ就労の割合が33.0%となっています。
・「親との同居・近居により、家事・育児の支援を受けている」割合は28.9%で、それ以外の71.1%は、親と同居・近居していないか、していても支援を受けていない、となっています。

●6歳未満の子を持つ夫婦の9割以上が、家事・育児等は「夫婦でするもの」

・家事・育児等は誰がするものだと思うかの意識について、性別、年齢、居住地すべての属性で9割以上の人「夫婦でするもの」と回答しています。

●男性の家事・育児参加のためには、夫婦や家族間でのコミュニケーションや、男性の家事・育児知識の向上、ワーク・ライフ・バランスなどが進むことが必要

・男性の家事・育児への参加促進のために必要だと思うことについて、最も多かったのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」でした。次いで「日常的に必要な“見えない家事”の存在や育児の内容を男性がもっと知ること」、「男性の家事・育児についての、職場の上司や周囲の理解」、「ワーク・ライフ・バランスや働き方改革が進み、定時退勤や休暇取得のしやすい職場になること」と続いています。

●産後パパ育休制度の利用意向のある人は7割以上

・令和4年10月に始まった男性の育児休業制度（産後パパ育休）について、「利用したい（してほしい）。申請すれば利用できると思う」（34.2%）と「利用したい（してほしい）が、難しいと思う」（42.1%）を合わせた、利用希望のある人は76.3%であり、産後パパ育休の利用意向は比較的高いことがうかがえます。

●希望日数は、約2週間から3か月が多い

・利用希望日数としては、「15日～30日」（37.0%）、次いで「31日～99日」（21.6%）が多くなっています。

●産後パパ育休の利用が難しいと思う・利用しないと思う「理由」で多いものは、「収入の減少」、「会社の理解が得られない」

・利用は難しい・利用しないと思う理由について、「収入の減少」、「会社の理解が得られない」という意見が男女ともに圧倒的に多く、「人員不足」との理由も多くみられました。
・男性の理由の特徴として、「個人事業主だから」、「仕事が大事だから」、「立場上難しい」という意見が多く、女性の理由の特徴として、「夫が取得するつもりがない」、「夫が家事・育児等を十分できると思えないから」、「自分だけで十分なため」という意見が多い傾向にありました。